

# 農業体験の受け入れ 農家と中学生が交流



泥の感触を楽しみながら田植え体験に取り組む大泉中の生徒たち

地方自治体の自立が求められている中、昨年十月に新「遠野市」が誕生しました。現在、新市の将来像である「永遠の日本のふるさと」の創造を目指し、各種施策を展開しています。市は、「都市と農村の交流」を「新市まちづくり計画」の主要施策に位置付け、交流・定住人口の拡大を図る取り組みを推進しています。

## 体験型修学旅行

東京都練馬区の東京学芸大学付属大泉中学校（角替寛校長、生徒四百二人）の三年生百三十九人は五月十六日から十八日までの三日間、体験型修学旅行として本市を訪れ、農業体験やサッカー交流など、さまざまな体験交流を行いました。生徒たちは十六日、本市に到着後、遠野ふるさと村で田植えに挑戦。初めは田んぼに入るのをためらっていましたが、はだして田んぼに入ると泥の感触に歓声を上げながら、にぎやかに

田植えを体験しました。その日は村内の曲り家に宿泊。首都圏では考えられない真つ暗で静かな夜を経験しました。十七日の農業体験は、遠野民泊協会（新田勝見会長）が全面的に協力。同協会に加盟する市内の農家二十一戸に分かれて、リンゴの受粉作業や野菜の作付け、乗用馬の世話などを体験し、農業への理解を深めました。生徒は昨年から一年かけて総合学習で遠野の歴史や文化、市政を勉強。同日の夜には、二十四班の中から五つの班が▽自然を活用した、観光地化を進め

## 関係団体と連携

最近では、首都圏などから大泉中学校のように、観光から体験・学習型に重点を置く修学旅行に取り組む学校が増えています。県では、特定非営利活動法人（NPO法人）いわてNPOセンターなどが中心となって、関東や仙台方面からグリーンツーリズム教育旅行を誘致しようと県内の関係団体に連携を呼び掛けています。市では、今回、大泉中学校の受け入れをコーディネートしたNPO法人遠野山・里・暮らしネットワークや、今年二月に農

家六十五戸で組織した遠野民泊協会が中心となって活動を展開しています。市は、このような取り組みを一過性なものにしないため、グリーンツーリズムへの参加者が遠野に何を求めて来るのかを常に把握し、きめ細かい対応を確立することが重要と考えています。修学旅行だけでなく、ワーキングホリデーなどの交流全般で質の高い事業を展開していくことが、遠野を訪れる人も受け入れる人も満足と喜びを分かち合うことになり、地域の活性化につながると思っています。

## 都市と農村の交流

観光旅行の形態は、人々の価値観の多様化に伴い「団体旅行」から「小グループ」へ、そして自然との触れ合いや心の安らぎ癒やしを求める「体験・学習型」観光へ変化しています。市は、これまで進めてきた観光施策と交流事業を基本にしなが、さらに遠野が持っている農的、文化的地域資源を大切に「ぬくもり」と「もてなし」の心で「都市と農村の交流」を推進していきます。遠野に滞在して「体験・学習」に参加し、心と心の交流を重ね

ることで、交流人口の拡大、遠野ファンが増え、さらには定住人口の拡大につながるよう取り組んでいきます。

※グリーンツーリズムは都市住民が農山漁村に滞在し、地域の自然や文化、人々との交流を楽しむ余暇活動。

※ワーキングホリデーは青少年が海外旅行中、訪問国で労働することを認める制度。遠野では、金銭のやりとりをしないで参加者が農家に宿泊し、家族の一員として仕事や家事を手伝い、食事と共にすること。



ニンジンの種まき作業に汗を流す生徒たち

## — Interview —



### 農業の大切さを実感できた

高橋理沙さん(写真左から3人目)

農業は、肉体労働だというイメージを持っていましたが、いろいろな機械を見せてもらい、意識が変わりました。

また、わたしたちを受け入れてくれた奥寺さんが、有機無農薬で野菜を生産していることを学び、誰もが口にする食べ物をつくる農業の大切さを実感できました。

遠野の人の優しさや方言、自然に触れほのぼのとした気持ちになりました。大人になったらまた遠野を訪れてみたいと思います。



### 自然体で普段の生活を体験させたい

奥寺晴夫さん(青笹町・51歳)

子どもたちは、冷暖房完備のトラクターに乗ってみて驚いていました。機械化された近代的農業を体験できたと思います。

わたしは、受け入れた子どもたちを特別扱いたしません。自分の子どもとして接するようにしています。そうすることが、心と心の交流につながると思います。

遠野を訪れる人たちは、田舎をイメージして来ます。ゆったりした気持ちになれるように自然体で普段の生活を体験させたいと思います。

市はグリーンツーリズムを推進していますが、携わっている職員にはぜひ専業農家で農業の厳しさ、楽しさを体験してほしいと思います。自分が体験することにより、都会の人たちへ農業の素晴らしさを伝えることができます。

また、有機無農薬の野菜を一度味わってください。味の違いを体験して、有機無農薬野菜をもっとPRしてほしいと思います。